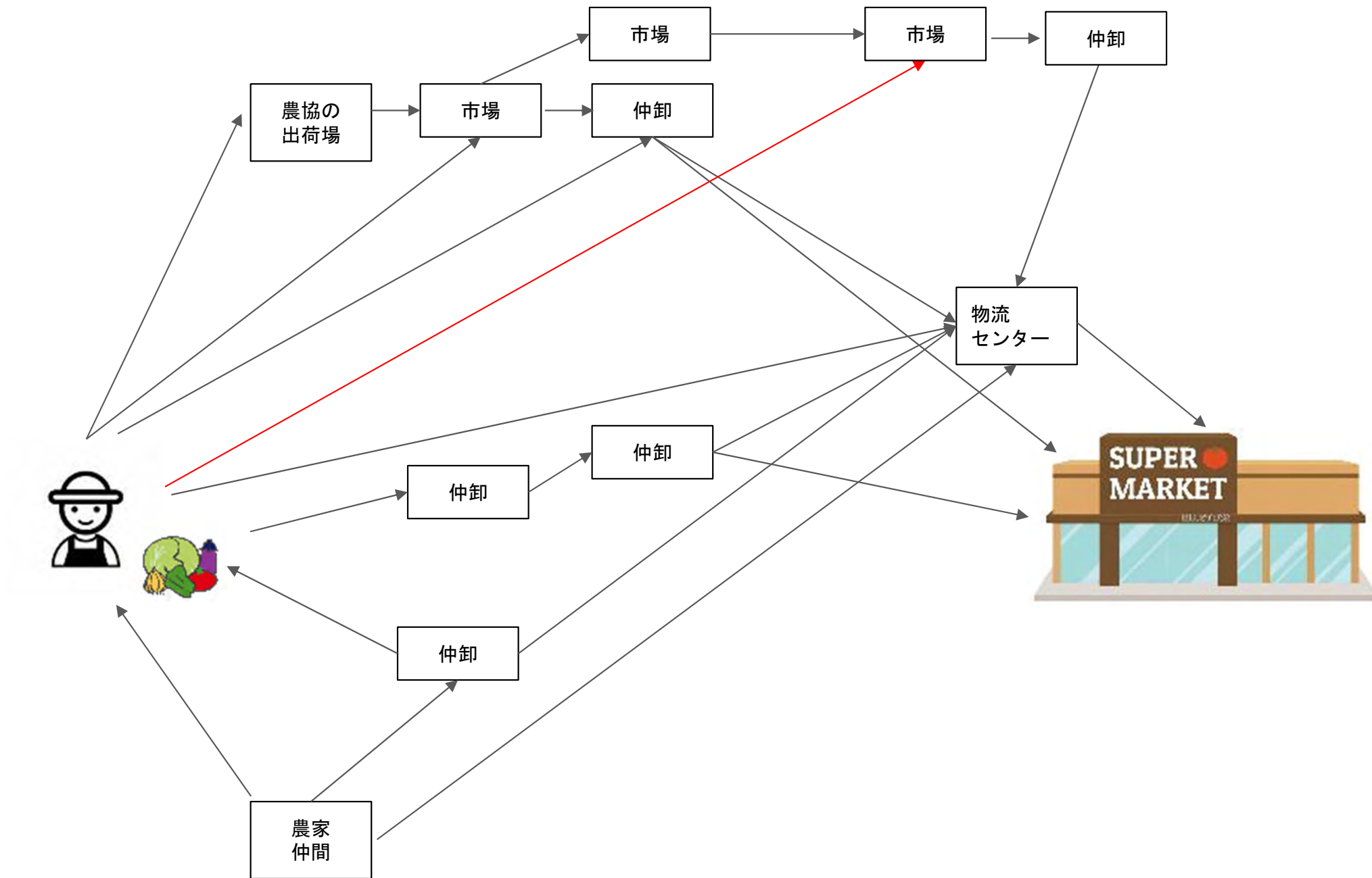
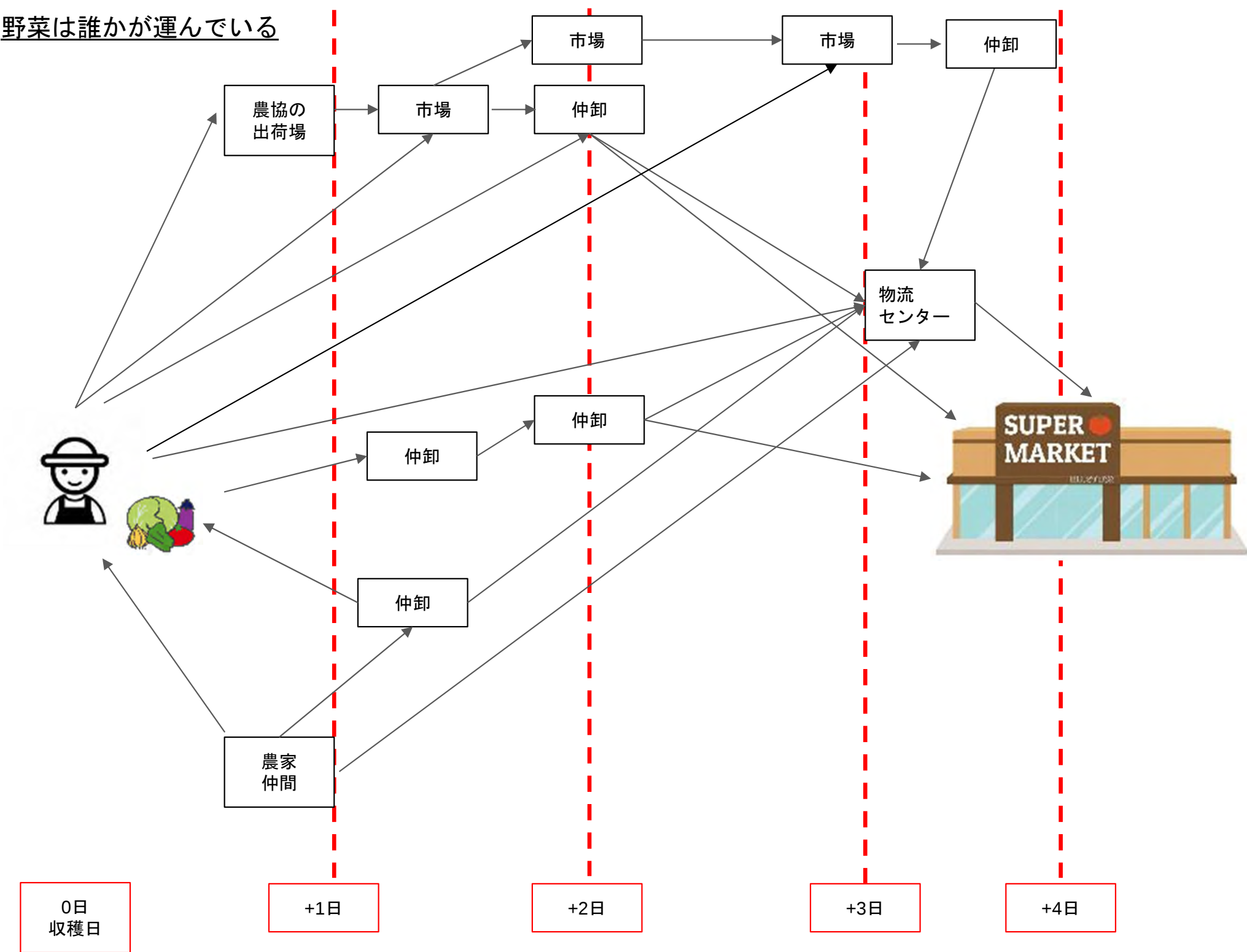


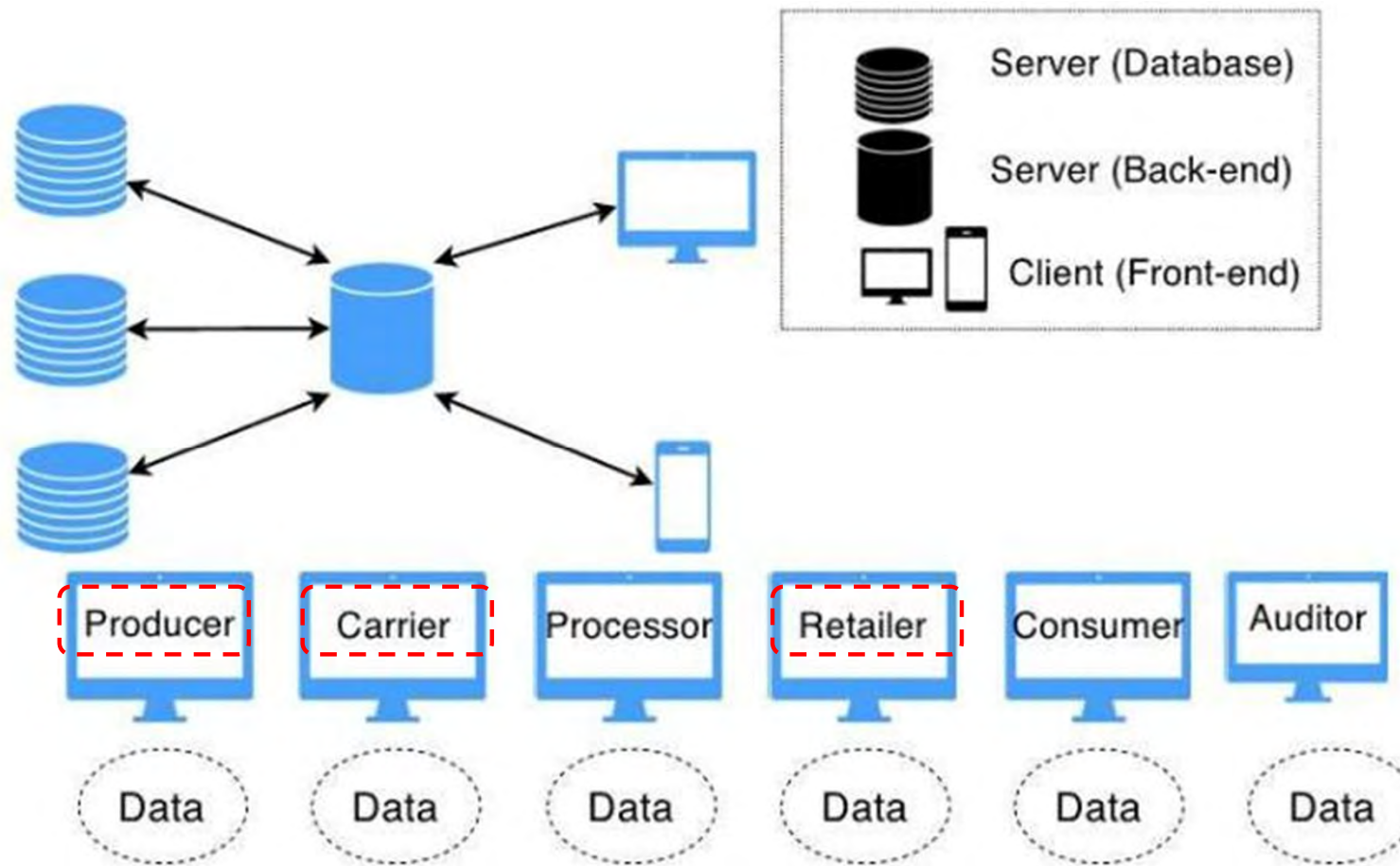




野菜は誰かが運んでいる



現状のデータ管理の構造



× 各関係者が必要な情報だけ自社で管理

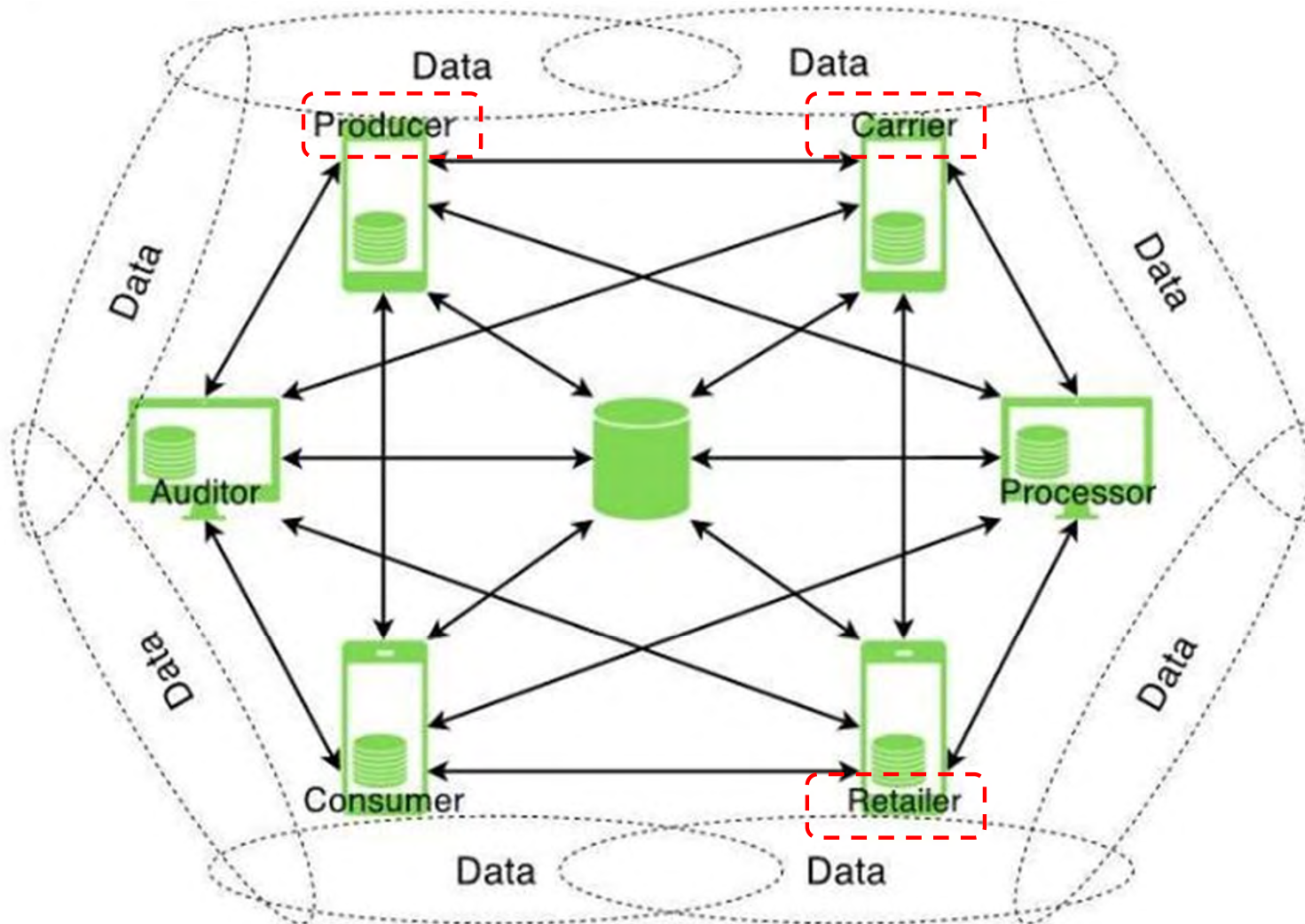
× 情報が分断されている

× 物の動きと商品の動きが別のデータ

1つの商品を登録するまで

	スーパー	やさいバス	生産者
1日目		商品にJANを付与した状態で 提案リスト作成	JANを持っていれば登録
	採用商品の決定		
		新規商品コード付与の依頼	
2~3日目	商品コード設定 (システム上最低でも1日かかる) すでに市場経由などで登録されているJANの場合は、登録不可と連絡がくる。	POP作成	
	決定した商品コードを連絡	JAN配布	
3日目	(新規商品コードが使えるようになっている)	各店舗へ商品コード付で商品一覧を共有 POPも送付	
4日目		商品コード一覧に、やさいバス 商品IDを記載する	JANが届く。商品に貼り付け。
	新規商品の納品が開始	商品コードと商品IDを紐づけて納品書、請求書を作成していく。	

やさいバスの構造



誰のデータか明確に
データを共有し透明性を高める
QRコードで誰でも取得しやすく

やさいバスの構造を支えているもの（例）

21:21100%

やさいバス

野菜

トマト

土耕

その他

5

kg

1000 円

1110 円

1 点あたりの価格 = 生産者の価格 + 手数料



到着時刻	停留所名
7:30	JAやさと里の四季
7:43	JAやさと中央集荷場
8:11	うしおだ農園
8:25	笠間茶屋
8:44	JA水戸直売所内原のめぐみ
9:12	城里町役場
9:30	道の駅かつら
10:25	道の駅さとみ
11:15	あかつ水産
11:45	無印良品ファッションクルーズひ
12:05	カスミひたちなか笹野店
13:00	鯉淵学園農業栄養専門学校
14:30	無印良品イオンモール水戸内原店
14:48	道の駅 かさま
15:06	田村きのご園
15:24	IDC(カスミストア岩瀬センター)
15:42	JAやさと中央集荷場
16:15	CDC(カスミ中央流通センター)

生産者
スマホやPCで
商品登録

物流会社
QRコードで
配送・物量確認

小売り
時刻表で全体ルートを
共有

なぜやさいバスなのか

背景	生産	農業従事者の平均年齢 67.8歳（70歳が離農の分岐点）20%台で減少が進んでいる。 耕作放棄地 40万ha（埼玉県2つ分の広さ） 新規就農者の配送負荷により生産性の向上が鈍化。
	物流	青果物流の積載率平均 約42%。配送ルート重複が常態化。 物流従事者の平均年齢 41.3歳。免許制度により担い手が減少。 物流企業労働時間の法改正で9時間拘束に変更となる（名古屋～東京が日帰りできない）
	販売/流通	市場の老朽化と仲卸の高齢化。HACCPなど義務化による負荷。（建替え資金がない） 地方市場の統廃合や民間企業による買収。 JAの直売所は全国的に約半数が赤字。野菜が集まらない地域が増えている。

農産物、食料品を生産しても
最適な状態で届かなくなる状況が差し迫っている

持続可能な物流を創出し、農産物、食料品を当たり前、誰もが手に取れる社会を実現する。

ルートが見える化をし共同配送
物流の持続性を高める



商取引、配送手配の間接コストを
削減し収益性を高める

事例



BLANDEつくば並木店

- ①部門がない
- ②自動走行ロボが営業中も動く
- ③ウェルシアとレジが統一



やさいバスが大切にしていること



SmartCommunityのOSを目指し 地域と共創

農は社会基盤産業
ゆえに、コミュニティづくりの基礎に必須

無理なく

かね、時間、気持ちに無理なく

おいしく

安全でおいしい食をつくり、手に入れ食す

楽しく

日常をわくわくしながら

誰もが美味しい食を手に入れられる社会



ご清聴、ありがとうございました！